

見えない力を育てる

校長 Sr.大山 江理子

秋は宗教行事の多い季節です。10月はロザリオの月、そして10月20日は「感ずべき御母」の祝日。学校ではセカンドステージは18日、ファーストステージは21日に祈りを捧げます。11月は死者の月、聖フィリピン・デュシェーンの日も巡ってきます。今年もステージごとに講演会を計画しています。そして12月にはゆりの行列があり、クリスマスウィッシングを行なってイエスの誕生をお祝いします。一つひとつの行事を通して、神さまを感じます。

「感ずべき御母」の祝日は聖心の子どもたちに特別なお祝いです。「感ずべき御母」のマリア様の絵を見ながら、ゆりの花が表わす美しい心、本が表わす知性、糸紡ぎが表わす実行力の3つを目指して世界の聖心で祈り、祝います。このお祝いで、実は、毎年矛盾を感じることがあります。それは、絵を見る、しっかり見る、という活動を取りながら、この祝日に唱える祈りでは、「目に見えるものにとらわれることなく、目に見えないものに心を向ける」ように願い求めるからです。「目に見えないもの」とはどのようなことでしょうか。マリアの落ち着いた眼差しから、祈りに向かう心の内側の世界に注目します。容貌や見かけの姿でない心のありよう、神と共に生きようとする心の世界です。そこは人と比べられない、その人のだけの場であり、聖心で大切にしている宗教的な精神性です。

一方、「見えない力」は今の教育の上でも注目されています。数字で測ることはできませんが、人間の資質として非常に重要で、学力と共になくてはならないものとされています。それらは非認知能力と呼ばれたり、メタ認知と呼ばれたり、新しいところではOECDが「エージェント」と呼んだりしています。具体的には、知性の働きを支える人間的な力です。自分を客観的に見て調整する力、やり遂げる力、人と関わる力など、より良く生きる力とも言えそうなことがらです。このような力を持っていれば、どのような状況にあっても、賢明に生きていくことができるでしょう。ではどうやってそれらを育てるのでしょうか。

数値化することはできませんが、指標は見つけられそうです。聖心で心がけてきた振り返りはこの力を育てる有効な手立てです。子どもたちは振り返りをする時には、目に見える出来事の部分と、目に見えない心の内側で感じたことの両方を良く考え、味わってみます。簡単に決めつけてしまわないで、考えをめぐらします。そして、言葉に表します。良かったことの中にさらに意味を見つけられることもあれば、良くなかったと感じられることに意味を見つければ、良くなかったことの中からも「良いこと」が生まれます。

9月には、前期の締めくくりとして学年全員で集まって「集い」を行なって、前期の振り返りを発表し合いました。自分の目に見えない世界のことがらを、言葉にして分かち合えるものとなりました。これは「見えない」ものを「見える」ものにする作業とも言えるでしょう。言葉にすることで、自分の歩みが確かめられます。そして、人に聞いてもらうことでより確かなものとなっていきます。

お子さんがどのような目に見えない力をもっているかどうかはお子さんの一生に大いに関わりそうです。この力を育てるためにも、お子さんの言葉に耳を傾け、お子さんの目に見えない世界がどのように成長しようとしているか、聴きとってください。日々の出来事について、お子さんの考えを聞いてみてください。大事なことは、本人が本気で納得している点です。どこにお子さんの納得があるか、よく聞いてください。そして、それが小さなことでも、お子さんの中で育っていくように見守ってください。お子さんの見えない力を大切にしまいいりましょう。



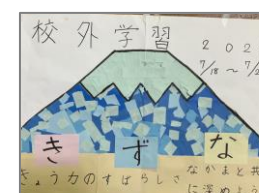
MATER ADMIRABILIS

10月の行事予定

1日(火)	都民の日	15日(火)	後期始業式、月曜時間割、身体測定、防災引き渡し訓練
2日(水)	3年社会科見学	18日(金)	感ずべき御母祝日(2nd)
4日(金)	面談日①・午前授業	21日(月)	感ずべき御母祝日(1st)
7日(月)	面談日②・午前授業		児童立ち会い演説会
8日(火)	面談日③・午前授業		6年保護者会
9日(水)	金曜時間割・午前授業	24日(木)	1st English Day
10日(木)	前期終業式・成績渡し	30日(水)	下校グループの集まり
11日(金)	秋休み・みこころ祭		泉の会代表幹事会
12日(土)	みこころ祭	31日(木)	3限までの授業
14日(月)	スポーツの日		

※11月1日(金) 初等科入試・家庭学習日

対話を通して ～相手の立場になって考える・行動する～ 教頭 吉岡 真左美



7月下旬には4年生、9月初めには6年生の校外学習があり、先日は1～3年生の遠足がありました。日常の生活から外に出かけていくと、友だちとの関わりや自然にふれあう中で、いつも以上に感性が豊かになるのを感じます。そして、相手の立場になって考えたり行動する視点を持つことが、自然に、あるいは意識してできるようになります。

私は、4年生の校外学習と1～3年生の遠足に同行しました。校外学習では、1日目に姉妹校の不二聖心に行き、聖堂やシスター方のお墓でお祈りをしました。構内を歩いているときに、夏休み前の片付けなどをしていた不二聖心のお姉さま方が、「東京からいらしたのですね。こんにちは！」と爽やかに挨拶をしてくれました。お邪魔になってもいけないのでゆっくりお話することはできませんでしたが、同じ聖心の家族として繋がっているのを感じ、心が温くなりました。お姉さま方も、名残惜しそうに見送ってくれました。

「挨拶」することは、対話の一步として日頃から心がけるよう呼びかけていますが、校外学習中はいろいろな方に出会い、お世話になったり関わりあったりして、挨拶をするチャンスがたくさんありました。



1～3年生の遠足では、3年生がそれぞれ1、2年生の立場になって、リーダーシップを発揮していました。一緒に歩くときのペース配分や声かけ、園内で行う「動物クイズ」など、準備の段階から心がけてきたことを実行していました。あいにく雨まじりの天気でしたが、学年を越えて楽しく交流する姿からは、天気も気にならないほどのパワーを感じました。

学校での行事や活動は、対話を通して相手の立場になって考えるチャンスがたくさんあります。自然にできることもあれば、意識することでできることもあります。意識できるように、私たち教員は準備の過程から児童に投げかけたり、考えさせるように努めています。終わってから振り返ることも、意識が深まる手立てとなります。

「相手の立ち場になって考え、行動する」ことで、友だちとの絆が深まることもあります。お互いに理解し合えたという手応えが、自信とさらに次の一步につながっていきます。社会に出たときに、他者を思い、自分ができることに力を尽くせるように、これからも励ましてまいります。



～6年校外学習より～

